

テレビ放送開始70年の記憶(2)

ー 民間放送を成立させた街頭テレビ ー

■街頭テレビは民間放送成立の切り札

日本初の民間テレビ局となった日本テレビ放送網（NTV）の正力松太郎社長は1953年8月の開局が迫る中、NHKの視聴契約数が低迷している状況を見て、スポンサーが得られず放送事業としての成立に危機感を持った。「テレビの宣伝効果は家庭にある受像機の台数ではなく、テレビを見ている人の数で決まる」と考え、多くの人を集める手段として街頭テレビを選んだ。

放送開始まで3か月の突貫工事で新橋駅前（写真右）、渋谷忠犬八子公前など都内55ヶ所に街頭テレビを設置した。正力社長の狙いは当たり、プロレス中継には一カ所あたり1万人以上もの大群衆が集まりスポンサー獲得の原動力になったと同時に一般家庭へのテレビの普及にも貢献した。NHKもテレビ放送開始時、7カ所に街頭テレビを設置したがテレビ視聴は有料契約が基本との考えで設置拡大には消極的だった。



〔写真1〕 NTV設置の新橋駅前街頭テレビ

出典：『昭和の記憶 写真家が捉えた東京』

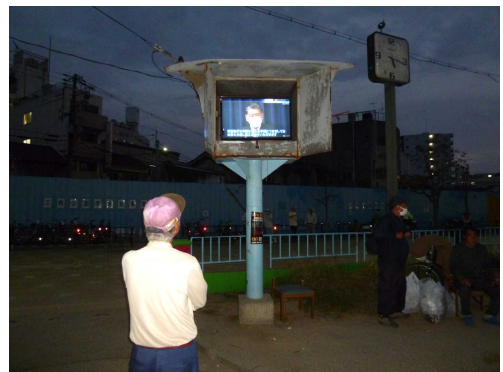


〔写真2〕 CBCによる大須観音境内に設置の街頭テレビ 出典：『CBC50年のあゆみ』

■日本で唯一「現役の街頭テレビ」

大阪市西成区の萩之茶屋南公園には日本で唯一現役の街頭テレビが存在し、日雇労働者の娯楽として親しまれている。本街頭テレビは1964（昭和39）年に設置されたもので1972年から治安活動の一環とし西成警察署が管理していたが、故障を機に2019年地元のまちづくり団体が管理を引き継ぎ、毎日18～22時の間放映している。

（渡辺治男）



〔写真3〕 萩之茶屋南公園の街頭テレビ

（2023年11月 筆者撮影）

■中部地区の街頭テレビ

中部日本放送（CBC）も1956（昭和31）年の開局に合わせて多くの街頭テレビを設置した。

第1号を名古屋テレビ塔内に設置し、続いてCBC会館前、大須観音境内、一宮市市役所前、大垣市スポーツ会館前、大津市滋賀会館前など30カ所に設置した。